

清流の辺



令和4年11月22日
特別号
校長 加々美竜也

「村への思いを形に」

・ ・ ・ 生徒と一体化したチーム丹波中

○先週末18日（金）に、全校道徳の研究授業を実施しました。その内容は、次の通りでした。（題名 右写真 授業の様子）

「村への思いを形にしよう」を主題とし、「地域」に感謝の気持ちを伝えるために何ができるかを考える授業です。
2部構成で、前半は、今年度の全校道徳3回の授業を振り返り、そのあと丹波山村への思いなどを考えます。後半は、生徒たちが中心となって、《具体的な形となる内容》を考えます。（生徒たちが繰り広げる意見交換が、一番の見どころです。）
『清流の辺 第8号』から

○舞茸祭の売上金をどう使うか、「村への思いを形に」という点で、生徒同士で意見交換をし、思いもよらない発想からさまざまな意見が出され、次の囲みに集約されました。今後、12月19日（月）の生徒総会に向けて、詰めていきます。

・新キャラクターづくり	1	・有名な人に何かつくってもら	3
・タバスキーの像	2	・バス停	1
・その他			

○ご感想 参観された皆さま、ご多用のところ、ありがとうございました。

- ▶丹波山村への思いを形にしようという中学生の意見が、大人では考えない様な物や、本当に村の事を考えている物など、色々出ていて面白かったです。舞茸祭りの売上金が何に使われるのか、楽しみです。
- ▶自分の考えをまとめて発表する事は、大人でも難しい事だと思いますが、授業では考えの掘り下げ方、要点の絞り方、等、生徒達のバラバラな意見をうまく吸い上げる事が出来て、私自身とても為になりました。子供達が持っている丹波山村への想いが知れて、とても温かい気持ちになりました。嬉しかったです。
- ▶みんなが真剣に売上金の使い道を考えていて、意見をたくさん出し合っていたのが印象的でした。子供ならではの目線のアイデアなど多く、興味深かったです。何に決まるか楽しみです。
- ▶今日は、ありがとうございました。見学する人がたくさんいて、普段とは違う環境だったと思うのですが、みんな、のびのびと自分の意見を言ったりしていたのが、印象的でした。私だったら、緊張して話したりできないと思うので。普段から自分の意見を言いやすい環境で、少人数のメリットなのかなと思います。また、そのような雰囲気を作ってくださっているのが有難いです。
- ▶周りの方や人にできることを考える機会は大事だと思います。学校で、自分なりの考えを言えることも必要で、授業として学べることはありがたいと思います。
- ▶答えが明確でない問いに、みんなで取り組む時間はとてもよいと思いました。個々の意見を否定しないところも私たちの良さだと思います。山村留学が増える中、「丹波のために何ができるか」という問いかけは、子どもたちに村に来た意義に思いをはせるよい機会になると思います。一方で、役場の方（村産まれ村育ち）から「中学生に、僕たちは村の役にたっていますか？と問われ、そんなに重い思い背負わず、もっとのびのびと村を楽しんでくれればよいのに。自分たちが子どもの頃はそんなこと考えたこともなかった」というお話を聞きました。思いを重荷に感じず、ふるさと（第2の？）を考えることができればよいですね。子どもたちから出る意見、おもしろかったです。